

◇ 編集後記 ◇

○「相愛国文」第四号をお届け致します。どうか三号雑誌だけは免れましたが、今回はかなりの難産でした。早々に玉稿をお寄せ下さいました先生方には、多大な御迷惑をおかけしましたことをお詫び致します。今号は、北谷先生、榎野先生、中西先生に御寄稿頂き、土井のを加えて編集しました。御高覧の上、御意見をお寄せ下さいますようお願い致します。

○「大学の時代」がもう足音をたてて近付いていますが、全国のどこの短大にもないユニークさを持ち、同時に若い人達にも魅力のある「国文学科」を目差さねばならない。また、私は所謂「団塊の世代」ですが、この世代でさえ大学短大へは二割程しか進学していない。従って、社会人を受け入れる抜本的方策を考えねばならない、と思っている。私は、かつて地方の短大で学生減少を身をもって体験して来た。今度は、更に厳しい状況が待ち受けているものと自覚している。

(土井)

執 筆 者 一 覧

北谷 幸册	本学国文学科助教
榎野 廣造	本学国文学科非常勤講師
中西 健治	本学国文学科非常勤講師 (人文学部日本文化学科助教)
土井 順一	本学国文学科助教

相愛国文 第四号

平成三年三月二十五日 印刷

平成三年三月三十日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学国文学研究室

〒599 大阪市住之江区南港中四―四―一

☎〇六―六二―一五九〇〇(代)

製 作 永田文昌堂

〒600 京都市下京区花屋町通西洞院西入

☎〇七五―三七―一六六五一